

2010年度

科目名	哲学B				
担当教員	池田 清				
配当	文 1・教育1・人間1		コード	43080	
開期	後期	講時	木曜日3限	単位数	2
授業テーマ	写真 映画 ト라우マ 欲望 そして無意識				
目的と概要	街にあふれるポスターを見たり、ドラマや映画を観るとき、何が起きているのでしょうか。例えば、新しい商品が欲しくなったり、登場人物に同情して泣いたり、怒ったりします。つまり、メーカーが買って欲しいものや、監督が泣いたり怒ったりして欲しいことに、われわれは反応してしまいます。私の「～したい」という欲望は、私以外の他者の欲望によって自由に操られているということです。私の欲望と他者の欲望はどういう関係にあるのか、これを知ることが授業の概要であり、目標です。				
成績評価法	出席(50%)、本試験(50%)から総合的に評価します。				
テキスト	テキストは使用しません。適宜資料を配布しますが、講義ノート中心です。				
参考書	授業中、その都度指示します。				
履修に当たっての注意・助言	哲学は、楽しいのです。				
講義計画					
<p>◎ 哲学は、訳の分からない難しいへ理屈でもなければ、現実離れた抽象的な言葉遊びでもありません。実は、日常生活の中で「どういう意味何やる?」、「何でなんやる?」と思った時に、もうすでに哲学の世界に一歩足を踏み入れているのです。</p> <p>われわれは、映画を見たり、写真を見たり、また夢を見たりしていますが、こうした日常的な経験の中で何が起きているのでしょうか。何で、ドラマを観て、泣いてしまうのでしょうか。授業では、映画や写真などの映像を見るということは、どういう経験なのかを問題にしなが、その経験を可能にしている様々な要因を洗い出し、くわえて、これまでの哲学史上のテーマ・考え方・概念などを紹介していきます。</p> <p>その場合、重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。この日常生活への反省からすべてが始まります。</p> <p>哲学の授業を有意義かつ面白いものにできるかどうかは、皆さんにかかっています。積極的に授業に参加して下さい。</p> <p>I エディプス論—父親殺しと欲望</p> <p>1フロイトのエディプス論</p> <p>2ラカンのエディプス論その1</p> <p>3ラカンのエディプス論その2</p> <p>4見る／観る条件としての自我の統一あるいは分裂</p> <p>II 映画論再考</p> <p>5映像単語説その1</p> <p>6映像単語説その2</p> <p>7映像単語説批判</p> <p>8映画論と言語論の交錯</p> <p>III 夢を見る／見せられる私</p> <p>9フロイトの夢理論</p> <p>10フロイトの「イルマの注射の夢」の自己分析</p> <p>11ラカンによる「イルマの注射の夢」解釈その1</p> <p>12ラカンによる「イルマの注射の夢」解釈その2</p> <p>13分身たちの世界</p> <p>14試験対策</p> <p>15まとめ</p>					